

国際ロータリー第2560地区
スローガン

ロータリーはステージ・
みんなが輝く！

高田ロータリークラブ
会長方針

ロータリーに共に参加し、
共に学び、共に楽しもう



2024-2025年度

国際ロータリー会長

ステファニーA.アーチック

第2560地区ガバナー

南雲博文

高田ロータリークラブ会長

飯塚宏佳

幹事

細野仁

広報・会報・雑誌委員会：

箕輪賢一 倉田 亮 阿曾 晋

第 33 回例会 5 月 23 日(金)

No.33

会長挨拶

●飯塚 宏佳



こんにちは。次年度へ向けての活動も始まりまして、これから2か月ほどがロータリーで一番忙しい時期になりますので、皆さんも何かとお忙しいところかと思います。

さて先週少し予告をしましたが、今週の火曜日に私と細野幹事、原野幹事エレクト、石倉70周年実行委員長の4人で米沢上杉RC様へ70周年記念式典への参加ご案内に行っていました。石倉実行委員長は当日合流されたのですが、我々3人は細野幹事の運転で前日に米沢入りしました。

前回米沢へお邪魔したのが2年前の米沢上杉RC60周年の時ですので、覚えていらっしゃる方もおられると思いますが、その時はこちらに全く財布を触らせない程の歓待をされました。今回はその反省を踏まえ、コッソリ内緒で現地入りをいたしました。しっかり下調べをしまして、とても美味しいお肉を食べ、止せばいいのにその後も鍋も食べ、原野さんを含め3人でスナックまで行き、存分に米沢の夜を満喫してまいりました。翌日は「米沢まで来てどこも観光していないのか？」と言われないうちに、例会場から車で20分ほどの所にある高畠ワイナリーに朝10時から行ってまいりまして、観るものをみて、買うものを買って、米沢駅で石倉実行委員長と合流をいたしまして、例会場であるグランドホクヨウに向かいました。

会場では2年前の会長で北島三郎でしたか？熱唱していた蓼沼SAAに出迎えていただきお土産として持参した高橋孫左衛門さんの飴をお渡ししました。その後12時から昼食となり12時半、例会開始となりました。食事の時間もそうですが、目を引いたのが机に置いてある一枚のラミネートされた紙でした。ローターアクトの周年行事に出たことがある方はご存じとおもいますが、一人が前文を読み上げ、その後全員で活動指標を唱和するあれを米沢上杉RCでも取り入れておりました。まだ始めたばかりと聞きましたが、良いものを積極的に取り入れる姿勢に関心させられました。会長挨拶の後すぐに幹事報告があり、そのあと私と石倉委員長で挨拶させていただきました。70周年式典当日と米沢上杉RCの所属する2800地区の地区大会が重なってしまうため、大勢でのご来訪は厳しそうですが、それでも人数を分けてお越しくさるそうです。

それから米沢東高等学校の生徒さんから短期留学の報告がありました。こちらはロータリーの財団事業では無く別のプログラムで送り出しており「高校生の未来と世界をつむぐ会」と協力されているようです。その後のプログラムでは米沢がある置賜地区の課題と取り組みについての卓話があり、新潟県と主要問題は変わらないなあと思って聞いてまいりました。そしてキッチリ1時間、食事開始から1時間半後の13:30に例会の終わりとなりました、これにて今回の米沢上杉RC訪問の報告も終わりたいと思います。

本日は上越教育大学准教授の寺戸武士様より卓話いただきます。皆様ご清聴よろしくお願い致します。

出席報告

出席率 100%

メイクアップ

飯塚宏佳君・細野 仁君・石倉 悟君・原野聖子君：
5/20 米沢上杉 RC
高坂光一君：小矢部中央 RC

セ レ モ ニ ー

ポールハリスフェロー表彰：遠藤 巖 君



ニコニコ BOX 紹介

高橋幸治君：5/21 松ヶ峰カントリー倶楽部で行われた平安セレモニー主宰の「チャリティーゴルフコンペ」で初優勝することが出来ました。6/24の「第7分区親善ゴルフ大会」でも頑張りたいと思います！

委員会報告

霜村会長エレクト：2025-26 年度委員会組織について

会員インフォメーション

高坂光一君：メイク報告（小矢部 RC）
渡邊 隆君：「マイナビオールスター2025」滝澤夏央選手をオールスターへ！

幹事報告

配布物：週報No.32、2025-26 年度委員会組織表(更新版)、ロータリー手帳（希望者のみ）
報告：ミャンマー大地震支援金のお願ひ

卓話：子どものミカタ



国立大学法人上越教育大学教職大学院
学校教育実践研究コース（道徳・進路・生徒指導領域）
いじめ・生徒指導研究研修センター
准教授 寺戸武士 様

メラビアン の法則によれば、人と人がコミュニケーションを図る際、言語情報が 7%、聴覚情報が 38%、視覚情報が 55% の割合で影響を与えているとされています。一方で、教員は「聴く」「話す」といったコミュニケーションにより児童生徒を理解し、寄り添い、支えており、それこそが生徒指導の根幹であり本質だといえます。だからこそ、教員は常に言語情報だけでなく「なぜそのような言葉を選ぶのか」「なぜそのような態度で話すのか」といった様々な情報から児童生徒を理解する力が求められます。

ただ、これは教員に限った話ではなく、人とのコミュニケーションにおいてほぼ当たり前のこととして認識されています。しかし、それが疎かになれば相手が伝えたいことと自分が理解したことに齟齬が生じ、誤解が生まれます。誤解は相手との信頼関係の破綻にも繋がりがねません。信頼関係が何よりも重要となる学校教育であるからこそ、この当たり前は教員にとってはより“当たり前”である必要があるのです。

では、こういった当たり前のことをどう身に着けてもらうのか。私はこれが教師教育においても、あるいは児童生徒のいじめ防止においても重要な視座になると考えています。そのためには、頭だけでなく、心や体を通じた理解（＝実感）が有効なのではないでしょうか。遠隔でのコミュニケーションが可能となった時代だからこそ、子どもたちにも、そして先生たちにも、心や体を通じた実感を伴った教育の重要性を感じています。

突然ですが問題です...

2014年6月3日 楽天対阪神
(ラジオ中継)

「さあ、セ・パ交流戦、阪神にとって11試合目となる今夜、3-0で楽天に3点差を付けて、阪神がリードのまま9回裏を向かえようとしています。この回を抑えれば阪神は、念願の今季交流戦初の連勝となります。」

さて、阪神はこれまで何勝しているでしょうか？

「言葉」で考えてみましょう

もし1勝しかしていない場合...

もし2勝しかしていない場合...

もし3勝しかしていない場合...

もし4勝していた場合...

もし5勝していた場合...

「連勝」はピンポイントではなく、「ぶよぶよの連勝」「全員の3勝目」

このあたりだと「全員の連勝」

「連勝」だけではなく「勝ち越し」

「言葉」は多くを語る

人は、言葉の意味だけで伝えるのではなく、表現の仕方や、ものの言い方、また表情や態度等によって、さらに多くの情報を伝えようとする。

なぜ、そういう表現をするのか？

なぜ、そういう言い方をするのか？

なぜ、そういう態度で話すのか？

子供の言葉の裏側にしっかり目を向けると、言葉以上のことが見えてきます。